

事業報告書

2022 年度の総括

2022 年度は、2019 年度末に端を発した新型コロナウイルス感染症拡大が秋口をピークに徐々に沈静化したこともあり、本協議会が事務局を担う「ワン・ワールド・フェスティバル」を 3 年ぶりに会場（リアル）で開催することができました。コロナ前の状況にはまだ戻ってはいませんが、イベントのリアル開催に伴い、様々なアクターとの交流を再開し、従来にも増して充実した国際交流及び活動が出来たことを報告させていただきます。

まず、本協議会が NGO/NPO のためのプラットフォームとしての役割を全うすべく、会員との連携及び情報交換する機会を増やすために、メールマガジンの充実を図りました。また、会員メンバーとの情報の共有、相互配信等を通じて情報システムの充実を図りました。また、Twitter 及び Facebook 等の SNS を有効に活用しながら、かなりの頻度で配信を継続することができました。今後会員メンバーとの連携を密にすることで、会員間のコミュニケーションを深める対応を心掛けたいと考えています。

本協議会が事務局機能を担う「ワン・ワールド・フェスティバル」は、3 年ぶりの会場での開催及びオンラインを加味したハイブリッド開催となりました。会場でのメインは、NPO/NGO 等の 61 団体の出展を頂いた「出展ブース」です。このブースは、SDGs17 項目の達成を目指した活動を紹介するもので、出展団体の様々な活動を「見て、聞いて、理解する」ことができる、大変貴重なコンテンツとなっています。

また、カンテレ扇町スクエアでは「民族舞踊・民族音楽」を楽しんでいただき、扇町公園では「みんなでスポーツ」として、クリケット・ボッチャ等のスポーツを楽しんでいただけるワークショップを実施しました。同時にメキシコにルーツのある大阪のルチャリブレ「大阪プロレス」の参加、各国料理が楽しめるキッチンカーの出店等、天候に恵まれたこともあり多くの来場者にお越しいただき大変な盛り上がりとなりました。

本協議会は、ワン・ワールド・フェスティバルの事務局としてプラットフォーム的な役割を果たすことで、今後も様々なセクターとのコンセンサス及びコラボレーションを重ねながら、2030 年のアジェンダ達成のために活動を継続して参ります。

2022 年度のこどもプラザの運営については、昨年同様コロナ禍で ZOOM での対応を強いられましたが、事業を休止することなく 1 年間継続することができました。

また、2022 年度は、資金的な手当として、積水ハウスから 85 万円、大阪市から約 100 万円の助成金をいただき、運営経費を賄いました。2023 年以降については、大阪市及び積水ハウスの助成を受けることはできませんので、新たな助成金を獲得すべく申請を行っているところです。

2022 年度と同様の助成金の獲得を目指し、今後とも外国にルーツのあるこども達の「日本語学習のサポート」の体制を強化し、こども達が日本の教育システムに無理なく馴染めるサポートを継続してまいります。また同時に、保護者の日本語習得のサポート及び日本での生活情報のプラットフォーム的な役割も含め、多文化共生の事業を推進して参ります。

1. NGO／NPO 間の連携促進事業（会員向け事業）

会員数＝正会員 35 団体、賛助会員（団体）0 団体、賛助会員（個人）0 人

（2023 年 3 月 31 日現在）

＊団体名は本報告書末に一覧表を掲載

（１）会員サービスの充実

〔内 容〕 会員間の情報交換、経験の共有を図るとともに、会員それぞれが有する専門性や経験情報・人材を活かせるように連携や協働の促進に努めました。

① 会員名簿の発行

発行部数 50 部 配布先 会員団体

② 講演会の開催

ロシアによるウクライナ侵攻という信じられない蛮行を目の当たりにし、ウクライナの現況について状況を知りたいとの多くの声をいただき、日本ウクライナ文化交流協会会長小野元裕氏の講演会を実施しました。

開催日時：令和 4 年 6 月 23 日（木）15:15～16:15 講演

16:15～16:45 質疑応答

※当日は、会員団体の皆様の会場出席及び ZOOM では会員団体の職員の皆様にもご参加いただきました。

（２）会員への情報提供と会員活動への広報協力

〔内 容〕

① 会員への情報提供

- ・会員からの問い合わせについて、各種助成金情報や会員団体による主催事業情報、NPO 支援に関する情報発信をホームページにアップし、Web で配信しました。
- ・本年度はメールマガジン配信を 27 号まで配信することができました。情報の配信を継続することで、会員間の情報の共有が可能となり、また会員以外の団体等に会員の活動内容を配信することで、有効な情報拡散ができましたことを報告させていただきます。
- ・ワン・ワールド・フェスティバル「ライブ配信」により、会員も含めた NGO/NPO の活動情報及び外務省・経済産業省等の貴重な情報も広く配信することができました。

② ホームページ・SNS による情報発信

- ・情報発信方法として、ホームページの掲示板からのイベント情報、ボランティア情報、求人情報、助成金公募などの情報を本年度も継続して配信しました。
- ・ホームページの掲載内容を、Facebook、Twitter から配信し、多くのフォロワーを獲得することが出来ました。

③ ワン・ワールド・フェスティバルが 3 年ぶりに開催となり、会場での会員団体の紹介、また SNS を利用した配信を行うことで広く告知ができました。

(3) 会員と企業や団体の連携による事業

- ① 会員が主催するイベント等で、運営のサポートの一環として、HP 及び SNS にて広報連携することができました。
- ② 会員との連携セミナーとして、ワン・ワールド・フェスティバルにおけるセミナープログラムでの連携及び北区民センター2 階のホワイエで、企業の SDGs の取り組みを紹介するブースを設けることで、将来的な NPO/NGO と企業との連携の強化が可能になればと考えているところです。
- ③ 会員の自主活動事業の協働支援として、活動状況を効果的に広報するため、本年度も当協議会が配信するメールマガジンにて紹介し、広報サポートを継続しています。

2. NGO／NPO と多分野の団体、他機関との連携促進事業

●第 30 回ワン・ワールド・フェスティバル

2023 年 2 月 4 日、5 日の両日、記念すべき第 30 回ワン・ワールド・フェスティバル（以下「OWF」という。）を、過去 2 回の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、会場（リアル）開催の中止というアクシデントを乗り越え、3 年ぶりの会場（リアル）開催を実現致しました。30 回の記念となる今回の開催は、過去 2 回のオンラインの良さを残しつつ、「オンライン」＋「会場（リアル）」の同時開催（ハイブリッド開催）といたしました。また、山西福祉記念会館会場ではオンラインでのライブ配信も実施いたしました。

会場でのメインは、NPO/NGO 等の 61 団体に出演を頂いた「展示ブース」です。ここでは、SDGs17 項目の達成に向けた各団体の活動が紹介され、これらの取り組みを「見て、聞いて、理解する」ことができます。2030 年に向けて SDGs の目標を達成することが、「人権を尊重した社会」「誰一人取り残さない社会」の実現へと繋がります。このような取り組みが、輝かしい未来社会に向かって一步を踏み出す動機づけになると確信しているところです。今回は、そのような場を提供できたと自負しています。

また、北区民センター会場及び山西福祉記念会館会場では、出展団体によるセミナーやセッションも開催され、市民が参加できる貴重な場を設けて頂きました。またカンテレ扇町スクエア 1 階ステージでは各国の民族舞踊や民族音楽等を披露することができました。扇町公園会場では「みんなでスポーツ」として、クリケット競技、ボッチャ競技等のほか、こどもたちのサッカーイベントも開催しました。また、メキシコ発祥のルチャリブレを起源とする大阪プロレスにも参加していただきました。さらに、各国料理を楽しんでいただける食事ブースではキッチンカーも出店し、天候に恵まれたこともあり多くの来場者にお越しいただき、大変な盛り上がりとなりました。また、オンラインにて、NGO/NPO 等団体の動画による活動報告「オンラインブース」、企業の SDGs への取り組みを紹介した「SDGs 交流ひろば」、SDGs を多角的に捉えて映像化した「動画コンテスト」も実施いたしました。

この開催に当たりましては、参加して頂いた NGO/NPO のほか、場所を無償でお貸しくださり

共催としてご協力いただきました一般財団法人大阪市コミュニティ協会北区支部協議会の皆様、そして外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、大阪府、大阪市、堺市をはじめとする省庁・自治体並びに教育委員会、各種団体、学校、企業、そして大学生や高校生をはじめとする若い方々も含め、極めて多方面から多くの関係者の方々からの多大なご支援、ご協力を頂きました。改めて心から感謝を申し上げます。



三木理事長の挨拶



サンバのダンス風景



SDGs シンポジウムの風景

【開催概要】

〔開催日〕 ①会場（リアル）開催：2023年2月4日（土）～2月5日（日）

②オンライン開催：2023年2月1日（水）～2月28日（火）

③ライブ配信：2023年2月4日（土）～2月5日（日）

〔場 所〕 ①北区民センター、カンテレ扇町スクエア1階ステージ、扇町公園、山西福祉記念会館3階会議室

②ワン・ワールド・フェスティバル特設サイト

④ 山西福祉記念会館3階ホール

〔入場者数〕 約24,500人

〔視聴者数〕 約25,000回数

〔参加団体〕 176団体（会場：112団体、オンライン：64団体）

〔プログラム数〕 140プログラム（会場：61プログラム、オンライン：79プログラム）

〔実施方法〕 実行委員会形式

〔共催団体〕 （一財）大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

〔協賛団体〕

（株）アクティブ・エステート、（株）ウィザス（第一ゼミナール・第一学院高等学校）、（学）エール学園、大阪プライム法律事務所、大阪府生活協同組合連合会、（一社）大阪労働者福祉協議会、音羽電機工業（株）、カンサイ建装工業（株）、近畿労働金庫、サラヤ（株）、（宗）真如苑、（株）ジャスピコ、大日本除虫菊（株）、新居合同税理士事務所、日本インプラント（株）、（一財）日本国際協力センター、日本労働組合総連合会大阪府連合会、（株）ベネシード、ミナミまち育てネットワーク、（株）リゾートライフ、小倉美術印刷（株）、（株）クボタ、阪急阪神ホールディングス（株）、日立造船（株）

〔運営協力〕

（公財）京都市国際交流協会、（株）ディーボックス、（株）関西テレビハッツ、（株）阪神インダ

ストリアルテクノロジー(HIT スクール)、カンカラカン(株)、(株)エキスプレス、ジャトー(株)、イワサ(株)、東豊配送(株)、大阪プロレス

〔後援団体〕

外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、関西領事団、大阪府、大阪市、堺市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府 PTA 協議会、大阪市 PTA 協議会、堺市 PTA 協議会、大阪商工会議所、(公社) 関西経済連合会、(一社) 関西経済同友会、(公財) 関西・大阪 21 世紀協会、(公財) 大阪観光局、(公社) 2025 年日本国際博覧会協会、(一社) 大阪青年会議所、(公社) 大阪府看護協会、大阪弁護士会、日本労働組合総連合会大阪府連合会、(一財) 自治体国際化協会、(公社) 日本ユネスコ協会連盟、(公財) ユネスコ・アジア文化センター、関西 S D G s プラットフォーム、(公財) 大学コンソーシアム京都、(特活) 大学コンソーシアム大阪、(特活) 南大阪地域大学コンソーシアム、(公社) 日本 WHO 協会、(一財) 大阪教育文化振興財団キッズプラザ、大阪市北区商店会総連合会、天神橋筋商店会、天神橋筋三丁目商店街振興組合、ミナミまち育てネットワーク、関西テレビ放送(株)



ステージの風景



出展ブースの会場の風景



扇町公園キッチン会場の風景

〔準備活動〕

① 実行委員会の結成

- * 2022 年 5 月 20 日に第 1 回実行委員会を開催し、下記の団体で実行委員会を結成した。
- * 構成団体：(独) 国際協力機構関西センター、(公社) アジア協会アジア友の会、(公社) アムネスティ・インターナショナル日本・関西連絡会、(公財) オイスカ 関西支部、(一社) 大阪青年会議所、(一社) 南太平洋協会、(認活) 大阪 NPO センター、(特活) 関西国際交流団体協議会 (全 8 団体)

② 実行委員会の開催

- * 実行委員会は 5 月から毎月開催し、イベント開催月の前月まで合計 9 回開催しました。
2022 年 5 月 14 日、7 月 1 日、7 月 26 日、8 月 26 日、9 月 16 日、10 月 21 日、
11 月 22 日、12 月 23 日、2023 年 1 月 20 日

③ 出展団体の募集期間

- * 出展ブース、セミナー、ステージ及びオンラインブースの参加団体の募集期間
2022 年 9 月 20 日 (火) ~ 10 月 25 日 (火)
- * ワンフェス動画コンテストの募集期間 2022 年 7 月 20 日 (水) ~ 12 月 20 日 (火)
- * SDGs 交流ひろばの募集期間 2022 年 10 月 3 日 (月) ~ 12 月 20 日 (火)

〔プログラム実施内容〕

① 出展ブース（61 団体）

* NGO／NPO、ODA 機関、教育機関等 61 団体が参加し、SDGs の取組活動を紹介しました。
この展示ブースは、SDGs17 項目の達成に向けた団体の活動を紹介するプログラムで、SDGs を達成するための様々な活動の具体的な取り組みを「見て、聞いて、理解する」ことができます。また、企業の社会貢献活動を紹介するブースも出展しました。

② セミナー・ワークショップ（12 団体、13 プログラム）

* 国際協力や国際交流の大切さ、人権等についてセミナー等が開催され、市民も参加され意見交換が行われました。また、一部のセミナーについては、ライブ配信プログラムとして、リアルタイムで広く配信されました。



北区民センターセミナーの風景



山西福祉記念会館セミナーの風景

③ ステージ（12 団体、12 プログラム）

* 国際性豊かな各国の民族音楽、民族舞踊をステージで披露することができました。イルマン在京都フランス総領事によるフランスの SDGs 取り組み事情、JICA 関西の留学生によるお国自慢紹介等国際性豊かなステージとなりました。

※特別企画として、2 日間で描き上げるライブペインティングも実施しました。

④ グローバルフードフェス（10 団体）

* 第 27 回は「みんなのキッチン」として世界の料理を楽しむことができるプログラムでしたが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響も残っていたので、安全安心を優先し、キッチンカーの出店に切り替えて実施しました。



扇町公園 グローバルフードフェス（食事ブース）会場の風景

⑤ みんなでスポーツ（4 団体、13 プログラム）

* 扇町公園では、だれでも参加できるみんなでスポーツを開催し、多くの来場者が訪れ大盛況でした。今回は、SDGs 目標 3「すべての人に健康と福祉を」の実現のために「大阪プロレス」とコラボレーションをしました。また、クリケットの体験コーナー、ポッチャの体験コーナー、こどもたちのサッカー教室ともに会場は大賑わいでした。



ポッチャの競技風景



大阪プロレスとこどもとのふれあい風景



こどものサッカー教室の風景

⑥ 写真展の開催（2 団体）

* 北区民センターのホワイエにて、外務省主催の写真展「心をつなぐ一枚の写真-共につくるせかい-」を開催しました。恵まれない環境で困難な状況に遭遇しているにもかかわらず、明るく生きる人々の写真は、見る人の心を打つものでした。

* ウクライナ侵攻はまだ続いています「ウクライナ避難民に心を寄せて」の写真展も開催しました。紛争のために避難を余儀なくされたウクライナの方々に寄り添う事の大切さを伝える写真展でした。

⑦ 避難民テントの展示（2 団体）

* 扇町公園で、国連 UNHCR 協会と国境なき医師団の難民テントの展示が行われました。特に、国連 UNHCR 協会のテントは、実際に避難地で使用されているもので、臨場感が漂い見学する人々の胸を打つものがありました。



難民キャンプテント国連UNHCR協会



国境なき医師団 テント

⑧ 体験型イベントの実施（実行委員の主催）

* 世界の民族衣装の着付け体験、SDGs ワークショップ(自然の物を利用したハンドメイド作品の制作)、世界の異文化体験（メキシコのピニャータ制作）等を実施しました。

⑨ ライブ配信プログラム（8 団体 8 プログラム）

* 今回の OWF の開催は、過去 2 回のオンラインの良さを残しつつ「オンライン」+「会場（リアル）」の同時開催（ハイブリッド開催）となりました。ライブ配信は 4 日（土）、5 日（日）の 2 日間、山西福祉記念会館 3 階ホールにて実施しました。



ライブ配信プログラムの風景

⑩オンラインブース（3 団体 3 プログラム）

* オンラインブースは、国際交流・協力活動に関わる公益活動を行っている団体が、団体の活動等を多くの市民の方々に知っていただくために動画を独自に制作し、動画で活動を配信するプログラムです。

⑪SDGs 交流ひろば（5 団体、6 プログラム）

* 企業が積極的に取り組んでいる SDGs の活動を、「SDGs 交流ひろば」のサイトから広く配信することで、参加企業間の交流も含め、多種多様なアクターへの動機づけとなることが期待されます。また今回はライブ配信として「サステナブル社会の実現に向けて」をテーマにシンポジウムを開催しました。「SDGs 交流ひろば」へ参加した 3 企業に SDGs の取り組みの講演をしていただき、その後パネルディスカッションとして「企業の SDGs の取組と学生からの提言」と題し、大学生と企業の代表者とのセッションを実施しました。

⑫ワンフェス動画コンテスト（47 グループ、47 プログラム）

* 動画コンテストには、学生の 43 作品、一般の 4 作品が参加しました。前回に引き続き 3 回目の開催となります。SDGs の理念や国際協力、国際交流への理解を深めるツールとしての役割を果たしています。

⑬スポンサーチャンネル（9 団体、23 プログラム）

* ワン・ワールド・フェスティバルを支援していただく企業の CM や CSR 活動を配信するものです。



「動画コンテスト最優秀作品」



「SDGs 交流ひろば」参加企業の動画



「オンラインブース」国際通貨基金の動画

3. 国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

（１） NGO／NPO に関する情報の収集・提供事業

〔目 的〕 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行うものです。

〔内 容〕 関係機関からの情報を整理し、ホームページ上で「新着情報」として取り上げ、タイムリーに配信することを継続しています。また、PICK UP 情報として、イベントの情報を詳しく紹介するコーナーも設け、情報発信の充実を図りました。各団体からの掲載の依頼なども新着情報と併せてメールマガジンに掲載し、約 500 団体に配信を行っています。

（２） 人材育成事業

〔目 的〕

学校法人エール学園の推薦により、2 名の留学生を受け入れ、国際交流・協力を目的とした「ワン・ワールド・フェスティバル」の開催に伴う、企画、折衝、プログラムの

制作の補助、イベント参加者の対応等、イベント開催の運営の実践を学ぶインターンシップを実施しました。

〔期 間〕 2022 年 10 月 1 日～2023 年 2 月 25 日

〔対 象〕 学校法人エール学園 留学生 2 名（ベトナム出身、中国出身の 2 名）

〔内 容〕 イベント企画の内容のチェック、実行委員会における企画の承認、イベント参加団体の募集、募集のためのポスター及び募集ツールの作成、過去に参加された団体等への募集要項の発送、応募者受付及びリストの作成、イベント告知ツールの作成、チラシの作成等運営について実践的に学べる内容となっています。また、当協議会の助成金の成果発表等にも参加し、積極的に NPO の事業に関わっていただきました。

4. 開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

大学生、高校生及び市民に向け、SDGs の目標達成を目指した活動の一環として、OWF のプログラムとして、ライブ配信イベントとして「SDGs 交流ひろば」のシンポジウムに大学生を招待し、企業とのセッションを行う等、ワン・ワールド・フェスティバルの次世代のリーダーを育てる活動を実施しました。また、コアボランティアのリーダーを育成するため、ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会にコアボランティアも参加し、実行委員会で発言及び提案等を積極的にすることで、社会的インパクトのある事業へと変革を行っているところです。

■SDGs 交流ひろばシンポジウム：「サステナブル社会の実現に向けて」

〔開催日〕 2023 年 2 月 4 日 14:30～16:00

〔対 象〕 学生、一般市民

〔内 容〕 企業の SDGs の取組について、学生からの質問を基に、企業の SDGs の取り組みについて再考する機会を設けるためのシンポジウムの開催。

5. NGO／NPO の基盤強化事業

（１）多文化共生事業

①こどもプラザ

〔目 的〕

外国にルーツのあるこどもたちが直面している困難な問題、１）日本語の習得と学校での授業についていけない問題、２）日本文化に馴染めないこどもたちの居場所づくりの問題、を解決するための施設として「こどもプラザ」を開設し、困難に直面しているこどもたちの支援活動を行っています。また、同時に学校の通知等を理解できないために、こどもサポートができない保護者（特に母親）の日本語の習得及び日常の生活等での悩みのサポートを行っています。将来的には、大阪市内を中心に必要と思われる地域に拠点を立ち上げ、他団体とも連携を取りながら順次拡大してゆく予定です。

〔事業実施期間〕

令和4年4月1日～令和5年3月31日 毎週水曜日 17時～19時

〔実施回数及び参加人数〕

- ・ こどもの日本語習得実施回数 48回 延べ参加人数 231人
- ・ 保護者の日本語習得実施回数 48回 延べ参加人数 136人

〔事業実施内容〕

①運営日時：毎週水曜日 17:00～19:00

※ボランティアの拘束時間 16:30～19:30

②対象者：

a) 大阪市在住の外国にルーツを持つこどもたち（Newcomer）

※主に小学生が対象 ※中学生も2名不定期に参加

b) 上記 a) の保護者

③参加費：無料（保護者も無料）

④運営実施内容

※こどもと保護者とは別々の部屋で指導を行っている。

a) 正しい日本語習得の支援

※元教員等のボランティアによる日本語で学ぶ学習の支援及び指導

b) 宿題の指導（学校の宿題をサポートする。）

※算数、国語の指導経験者が指導。

※宿題を進める過程で日本語の習得も同時に指導。

c) こどもとの心のふれあいタイム（日本の習慣及び文化を教える目的で実施している。）

※毎回最初の10分～15分間は、学校での活動及び出来事を中心に日本語で会話する時間を設ける。（まだ日本語のできないこどもは、通訳の先生を介して可能な限り日本語の単語を使って説明することになっている。）

※この会話の中で、学校での疎外感、いじめ等がないか用心深く会話を進めていくようにしている。

※遊ぼうタイムでけん玉や折り紙に挑戦する時間も設けている。

※四季のイベントとして、7月6日（水）七夕まつり、11月9日（水）ハロウィン、12月21日（水）クリスマス、3月1日（水）ひな祭りをそれぞれ実施した。

※昨年に引き続き、2022年4月～2023年3月までに実施する大阪市の地域課題・社会課題の解決を目的とする公益的な事業として、「こどもプラザ」が大阪市市民活動推進助成事業の助成金の交付受け、事業を推進して参りました。しかしながら、助成金は最長3年までとなっているため、2023年度の助成金を受けることはできません。このため他の助成金（大阪コミュニティ財団 45万円確定）を受けるべく申請をしています。



こどもプラザの授業風景



お雛祭りで記念写真



保護者の日本語習得の風景

6. 調査研究・提言事業

当協議会は、国際交流・協力の中間支援組織としての経験や情報、及び NP0 法人としての視点を活かすとともに当該関係者の実情や声を施策に反映できるように努め、OWF 実行委員会等で得られた情報を事業に活用することで、その貴重な情報を関係者にフィードバックすることに努めて参りました。特にこどもプラザの外国にルーツのあるこどもたちの受入状況及び日本語習得の進捗情報等については、社会的な問題を解決するための有用な情報となり、東住吉区、平野区、生野区の小学校校長会での情報提供を行っています。今後も継続して大阪市教育委員会事務局及び近隣区役所の小学校校長会との連携を継続することとしています。

コロナ禍における在留外国人で大変重要なことは、日本の生活で困難に直面した時に相談するところがあるかどうかになります。特に最近では、在留ビザ、労働、税金、生活についての問題を抱えていることが多く、このような問題を解決するために、毎年2回「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議（事務局＝大阪国際交流センター）が主催する「1日インフォメーションサービス」を開催しています。当協議会も主催者メンバーとして参加し、開催当日は事務局員が2名参加しています。この事業は、次年度も継続する予定です。

関西ボランティアネットワーク会議（KIV-NET）では、当協議会がメンバーとして他の参加団体とボランティアについての情報を共有しています。特に、2025年大阪・関西万博の開催期間中には多数のボランティアが必要となるため、KIV-NETの役割が重要となり、今後どのような役割を担うかが検討されているところです。日本国際博覧会協議会の現在の状況は、2023年秋ごろにボランティアの募集を開始する予定になっています。ワン・ワールド・フェスティバルのボランティアとの協働が可能なのか、今後ネットワーク会議との連携を取りながら、どのような対応がベストなのか検討をして参ります。